様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月　 ５ 日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2011～2013
課題番号：２３６５３２９０

研究課題名（和文）低学力層に対する歴史教育の研究－ドイツの政治教育の観点から－

研究課題名（英文）Study on the History Teaching for the Low-achieving Students, The Case of Gemany

研究代表者
近藤　孝弘（Kondo, Takahiro）

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：４０２４２２３４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　1,600,000円、（間接経費）　480,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は，今日のドイツにおいて歴史教育に期待されている低学力層に対する政治教育としての機能に注目し，特にその歴史的な発展過程を描き出すものである。主要な歴史教育学の研究成果と，ノルトライン・ヴェストファーレン州の基幹学校用学習指導要領を時代を遡って調査して結果，次のことが明らかになった。すなわち外国人労働者の導入の前後で，低学力層を構成する人々の属性は異なっており，歴史教育に低学力層を念頭においた政治教育上の期待が寄せられるようになるのは比較的新しく，1970年代後半のことである。

研究成果の概要（英文）：　This research focuses on the history teaching in Germany, especially on its function as civic education for the low-achieving students. In particular, this research describes the historical development process of its educational function.
In this research I traced the historical background of the leading works of history education and the curriculum guidelines for the Hauptschulen in the State of North Rhine-Westphalia. The research results have clarified the following point. Namely, the attributes of the students composing the low-achieving layer vary before and after the introduction of foreign workers. The expectations of civic education that focused on the students in lower educational levels were placed in historical education only after the latter half of the 1970s.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教科教育学

キーワード：歴史教育　政治教育　学力　ドイツ

１．研究開始当初の背景

(1)右翼急進主義，低学力，移民，これら３つの言葉は，今日のドイツにおいて相互に結びつき，政治教育としての歴史教育にとっての大きな課題を形成している。そこでは，低学力の結果として政治的知識が不足した若者が，右翼急進主義勢力によるアプローチのターゲットとされ，また彼らは，移民を格好の政治的な攻撃対象としているだけでなく，移民自身が低学力者層の中で大きな割合を占めており，移民のあいだではマジョリティとは異なる民族・宗教集団に準拠した急進主義が広まるという錯綜し，緊張に満ちた社会状況が形成されている。

　現時点において，日本における移民の数はドイツと比べて極めて小さいが，すでに右翼急進主義の問題ならびに低学力の問題は相当程度に認識されており，そこでは移民も重要なファクターとなっている。遠くない将来に，ドイツと比較すべき状況が日本に生じる可能性は否定できないと言えよう。

(2)ドイツでは上記の課題に対する取り組みが，今日様々な教育機関により急ピッチで進められている。連邦や州の政治教育センターをはじめ，さまざまな政治教育機関が移民の統合を目的とする歴史教育教材を開発しているほか，ハウプトシューレ等に通う学力が低い生徒に対する教育を念頭においた教科書も，内容・方法ともに新たな工夫を取り入れている。

(3)しかしながら，特に教科書の工夫一つをとってみても，それがドイツの歴史教育学の発展の歴史の中にどのように位置付くのかは，日独両国の研究において必ずしも明確ではない。

　ここには，ドイツにおける歴史教育学研究が基本的にギムナジウムを中心とする学力の高い層を念頭において進められてきた様子，ならびにそれをフォローし，また紹介するのが精一杯であった日本の歴史教育学の状況が表れている。

２．研究の目的

(1)今日のドイツ各州の学校ならびに政治教育機関による，移民を中心とする低学力層に対する政治教育としての歴史教育に関する情報を，教材ならびに教育プログラムを中心に収集する。

(2)ドイツにおける低学力層に対する歴史教育学の発展過程を明らかにする。より具体的には，教育内容面では，移民をめぐる諸問題が広く意識されるに到る時期を確定することを通して，それ以前と以後における違いを確認する。

(3)教育方法面では，今日の低学力者向け教科書に一般的に見られる，左右見開き 2 ページで一つのテーマが完結する様式が，いつごろ導入され，普及したかを確認するほか，それ以前の時期における教育方法上の革新の有無についても調査し，それを通して，今日の教育の持つ意味を明らかにする。

３．研究の方法

(1)可能な限り戦前にまで遡り，主要な歴史教育学の媒体（書籍ならびに研究誌）に，ハウプトシューレの生徒を対象とする歴史教育の在り方を論じた研究を探索し，そこに見られる論点ならびに考え方の変容を明らかにする。

(2)ドイツの代表的な歴史教育研究者に，低学力者層に対する歴史教育のあり方に関する研究の展開についての見解を尋ねる。

(3)政治教育に関連するデータベース上で，歴史教育学の範疇の外で考案・実施されてきた実質的な歴史教育教材・実践に関する情報を収集する。

(4)ドイツ統一の前後を問わず最大の州であるノルトライン・ヴェストファーレンを例にとり，戦後のハウプトシューレ用の教育課程基準と教科書における移民に関する記述の変容を明らかにする。

４．研究成果

(1)近年注目を集めているマンガやゲームといった娯楽的要素の強い媒体・形式を利用して歴史学習を促す方法は，予想に反し，必ずしも学力の低い生徒たちを念頭において開発されているのではないことが明らかとなった。

　すなわち，そのような教育方法のなかには，たしかに低学力層を主な対象として開始されたケースもあるが，より根本的には，歴史学習に対する関心を高め，また参加型の学習を展開することそのものを目的としており，ギムナジウムなどに通う高学力層が視野から排除されてはいないのである。

(2)他方，特に歴史学習ゲームについては，過去の事実は一度限りの不変なものであるという歴史の性格は，何度でも参加可能で，そのたびに異なる展開が想定されているゲームとは相いれない，すなわちそれを授業で用いることは，歴史教育に相応しくないとする意見も存在している。

　こうした考え方は，特にギムナジウムのような，従来の文字資料の読解と分析を中心とする歴史教育が可能な高学力層を念頭におく場合，強く打ち出されがちである。このことは，(1)の指摘と反対に，やはり娯楽的要素の導入は，基本的には低学力層と密接な関係

にあることを示唆している。

(3)他方，低学力層では，娯楽的要素を強めた教材でも，なかなか生徒がついて来られない現実が，そうした教材の開発者によって指摘されてもいる。すなわち仮にマンガで過去の出来事を叙述したとしても，基本的な予備知識が欠如している場合，また特に移民のようにドイツ語能力に不足がある場合，重要なポイントを認識し，理解する上での困難を完全には払拭できない。たとえばマンガを読んで理解するにも非常に長い時間を要してしまい，授業時間内に期待される学習活動を終了することができないといった問題が指摘されている。

このことは，ドイツにおいて歴史教育に割り当てられた政治教育上の責任が，多大な努力と創意工夫にもかかわらず，現実には充分に果たされていないことを示唆する。

(4)娯楽的な要素を取り入れることで歴史学習を多くの生徒によって魅力的なものにしたいとする考え方は，比較的新しいものである。

そこには，移民が社会問題化する以前は，低学力層とは，いわゆる農村の生徒が考えられており，彼らは社会の不安定要因とはみなされていなかったという事情があると考えられる。低学力層のなかに文化的な異質性の高い移民が占める割合が大きいことが明らかになって初めて，その政治教育の重要性が認識されたと言える。

同時に，このことは，マジョリティの低学力者のあいだに広まる右翼急進主義に対しては，長期にわたって特別な教育的対応が講じられてこなかったことを意味する。

(5)ノルトライン・ヴェストファーレンの例を見る限り，教育内容面での対応が本格化したのも，外国人労働者の受け入れが停止した時期である。

それ以前は歴史上の移民の例として，たとえば 1948 年の教育課程基準では，⑴4-5 世紀のゲルマン人の移動のほか，⑵12-14 世紀における（ライン川沿いの地域から）東欧ないし現在のドイツ東部への移住と開拓，⑶17 世紀末から 20 世紀にかけてのドイツからアメリカ大陸への移民，⑷19 世紀における農村から都市への人口移動の 4 点に注目されていた。このあと 1955 年の改訂を経て，1968 年の教育課程基準では上の⑶と⑷が消え，代わりに⑸第二次世界大戦や冷戦によって発生した難民が追加されている。この変容の背景に，当時のヨーロッパ情勢とそのドイツへの影響があるのは明らかである。

そして大きな変化が認められるのは，1974 年の改訂である。東西の緊張緩和が進む一方で，第一次石油危機のもとで外国人労働者の受入れ停止（1973 年）が宣言されるという状況下で，そのとき⑸の代わりに，⑹外国人労働者としてのムスリムをめぐる問題が初めて，しかも詳細に取り上げられることになった。現在の歴史教育は，この転換の延長線上に位置しており，時間とともに，移民の姿がより具体的に描かれるようになってきたと言える。

このように，移民を中心とする低学力層のための歴史教育，とりわけその政治教育的側面が注目を集めるに到ったのは，わずか 40 年ほど前のことであり，その方法論的模索はいまも進行中であると言える。

(6)なお，研究当初は予想していなかったが，特にマンガを使用した歴史教育のアプローチは，歴史的な図像の活用を重視する近年の教育方法の影響を受けているという指摘が存在することも確認された。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　1　件）

① 近藤孝弘、“グローバリゼーション”は歴史教育を変えるか－ドイツの対応に見る変容と連続性－、教育学研究、査読有、81 巻 2 号、2014、1-12

〔学会発表〕（計　1　件）

① 近藤孝弘、民主主義の持続不可能性と若者期待論〔日本比較教育学会第 49 回大会〕

〔図書〕（計　2　件）

① 豊田ひさき、近藤孝弘 他、教養と学力、2011、116

② 山田肖子、森下稔、近藤孝弘 他、比較教育学の地平を拓く、2013、442

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
なし

６．研究組織
(1)研究代表者
近藤　孝弘（KONDO, Takahiro）
早稲田大学　教育・総合科学学術院　教授
研究者番号：４０２４２２３４

(2)研究分担者
(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者
(　　)

研究者番号：